PRESS RELEASE　報道機関配布資料　高崎市 TAKASAKI CITY

令和８年１１月４日

件名　令和８年度文化財保護賞受賞者の決定及び授賞式の実施について

令和８年度高崎市文化財保護賞受賞者について下記のとおり決定しましたので、ご報告いたします。高崎市文化財保護賞は、文化財の保護・普及にご尽力いただいた方の中から、特に多大な貢献をされた方に授与しているものです。受賞者は、高崎市文化財調査委員会議の選考に基づき、高崎市教育委員会が候補者を推薦し、市長が決定します。昭和５１年度から始まり、今回で５１回目を迎え、昨年度までに１４６の個人や団体の方々が受賞されています。

授賞式は１１月２６日（木）午前１１時３０分から、市庁舎６階市長応接室で行います。

文化財保護賞受賞者

受賞者名　神保（じんぼ）侑史（ゆうし）

功　績　候補者は、元多胡碑記念館館長。上野三碑世界記憶遺産登録推進協議会委員として調査研究部会の構成員を務め、平成２９年のユネスコ「世界の記憶」登録に至る過程において、国内公募申請書の作成にかかわるなど、学術的・普及啓発の両面から多大な貢献を果たした。現在も多胡碑・山上碑・金井沢碑の「上野三碑」の歴史的価値を広める活動に尽力している。

受賞者名　仁叟寺（じんそうじ）

功　績　僧職および檀家らの尽力により、県指定天然記念物「仁叟寺のカヤ」、市指定重要文化財「天祐山公田院仁叟寺」をはじめとした多数の文化財の維持管理、保存に努めている。中でも境内地にある市指定史跡「多胡古墳群　寺ノ上支群」は、仁叟寺による適切な管理によって古墳群の全体像が明らかとなり、令和５年の市の史跡指定につながった。

【本件に関する問い合わせ】
教育部文化財保護課　電話：027-321-1292

令和８年度　文化財保護賞の受賞者について

（１）受賞者　　神保（じんぼ）　侑史（ゆうし）　様

功　績　　候補者は、元多胡碑記念館館長。上野三碑世界記憶遺産登録推進協議会委員として調査研究部会の構成員を務め、平成２９年のユネスコ「世界の記憶」登録に至る過程において、国内公募申請書の作成にかかわるなど、学術的・普及啓発の両面から多大な貢献を果たした。現在も多胡碑・山上碑・金井沢碑の「上野三碑」の歴史的価値を広める活動に尽力している。

備　考　　高崎市吉井町神保に鎮座する辛科神社の宮司であり、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事を務める。多胡碑をはじめとする上野三碑の価値を広める活動に従事し、多胡碑の碑文を深く研究するなど、地域の歴史文化の保存・伝承に尽力している。現在も講演活動を通じて古代東アジアの交流を示す歴史的重要性を広く発信し、地域の誇りとして根付かせるための活動を精力的に展開している。昨年度は、金井沢碑建立１３００年記念事業運営委員会の会長も務めた。



神保（じんぼ）　侑史（ゆうし）　氏

「多胡碑の謎に迫る―甘楽の谷の古代氏族と神社―」講演会の様子

（２）受賞者　　仁叟寺（じんそうじ）

功　績　　僧職および檀家らの尽力により、県指定天然記念物「仁叟寺のカヤ」、市指定重要文化財「天祐山公田院仁叟寺」をはじめとした多数の文化財の維持管理、保存に努めている。中でも境内地にある市指定史跡「多胡古墳群　寺ノ上支群」は、仁叟寺による適切な管理によって古墳群の全体像が明らかとなり、令和５年の市の史跡指定につながった。

備　考　　室町時代の大永二年（１５２２年）創建。境内には数多くの門や堂が配置され、県内屈指の伽藍配置を誇る曹洞宗の霊場として峻厳な雰囲気を今に伝えている。２０２２年には開創５００年を迎えた。市指定天然記念物であるカヤの木や墓所を含め、境内全域の一体的な保存管理に努めている。貴重な建造物や寺宝を現代に継承し、これらを公開・活用することで開かれた寺院として近隣のみならず市郡域から多くの尊崇を集めている。



仁叟寺（じんそうじ）　本堂

高崎市文化財保護賞について

１　賞の名称　　高崎市文化財保護賞（高崎市文化財保護賞条例施行規則第２条）

２　概　　要　　高崎市文化財保護賞は、文化財の保護や普及にご尽力いただいた方の中から特に多大なご貢献をされた方に授与している。昭和５１年度から始まり、令和７年度で５０回目を迎え、昨年度までに１４４の個人や団体が受賞している。

３　賞の対象　　(1) 指定文化財の所有者、管理責任者又は管理団体
(2) 文化財保護に功績があったと認められる者

４　授 賞 式　　(1) 時　期　１１月２６日(水)　午前１１時３０分～
(2) 場　所　高崎市役所６階市長応接室
(3) 保護賞　表彰状、副賞（金 30,000 円、金額は高崎市文化財保護賞条例第２条による)、記念品（表彰状用の額）
※授賞式の最後に、市長を囲んで記念撮影を行います。